

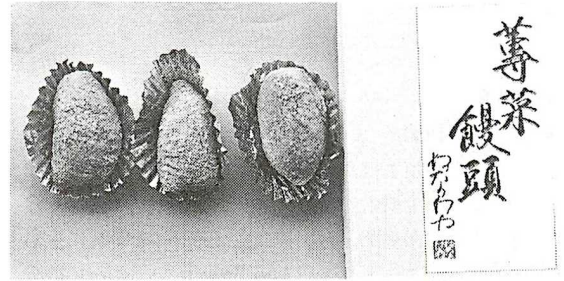
## 「蓴菜饅頭」

角野康郎

ジュンサイは若芽が懷石料理の椀だねや酢の物に使われ、古くから食用にされる代表的な水草である。最近ではスーパーマーケットなどでも瓶詰めのジュンサイが数百円で売られ、それほど珍しいものではなくなったが、春から初夏にかけては水面に小舟や桶を浮かべてのジュンサイ採りの光景は季節の風物詩でもあった。しかし、ジュンサイの生育する池が開発によって次々と消滅し、また水の汚れによって衰退する群落もあるなど、良質のジュンサイが採れる場所が激減している。今では東北地方を中心に休耕田を利用して栽培したジュンサイが市場の中心になっているが、最近では中国からの輸入品も増えているという。池採りの天然ものは少なくなり、そういう良質のジュンサイは直接、大都市の料亭に流れるそうで、我々の口には入らない。

このように産地が減少する一方で、ジュンサイの効用が注目され始めている。ジュンサイのゼラチン質の保湿効果に着目して某大手化粧品メーカーが肌の保湿用化粧品を開発したのは、テレビのコマーシャルでも流れているのでご存じの方もおられよう。このゼラチン質が健康によいと言われるムコ多糖類という点も注目されているようで、健康ブームにのった出版物にもジュンサイの名をみかける（中国の書物には、薬用としてさまざまな効用が記されている）。

さて、それはさておき、今回紹介するのは「蓴菜饅頭」(写真右上)。古くからジュンサイ採りが盛んに行われてきた兵庫県三田市にあるぬなわや本舗が売り出したもの（ちなみに「沼縄」はジュンサイの古名）。製法は知らないが（企業秘密？）、消えゆくジュンサイを守ろうとぬなわや本舗社長の奥さんが考えられた苦心の作とか。多分クズ粉を用いた衣にジュンサイが入っている。味はなか



なかいける。柔らかく甘さ控えめで後味が悪くないのがよい。

三田方面（「兵庫県立人と自然の博物館」のある所です）に足を向けられた節はお試しあれ。なお沼縄亭ではジュンサイ料理も賞味できるそうだ。

## （追記）ジュンサイとヌートリア

ジュンサイが消滅する原因がため池の埋め立てや水質汚濁の進行にあることは書いたが、最近、三田市ではヌートリアがジュンサイ消滅の一因になっているという。「ため池でビーバーが泳いでいた!」、「カワウソを見た!」という噂の正体はこのヌートリア（次ページ写真）。第二次大戦中に毛皮を取るためにアメリカから導入し大量に養殖されたが、戦後、養殖場の廃止によって野生化した大型のネズミの仲間である。狩猟獣として捕獲され、多くの地域で姿を消したが、近畿地方では再び増え始めている。水面を泳ぐ姿を見ると、本当にビーバーかと思ってしまう。

兵庫県下のため池や河川でも、周囲が土堤で穴が掘りやすいような池や好物のマコモが群生しているような所ではよく見かけるようになった。10匹近い子どもを連れてくる場合もあり、放っておくとどんどん増える勢いである。夜になると付近の畑に出かけてキャベツを食い荒らすなど問題になっているが、さまざまな水草も食べている可能性がある。実際に三田市ではヌートリアの侵入でジュンサイ群落が消滅した池があるという。可愛い姿をしているが、このままではジュンサイ採りという「伝統産業」の宿敵になってしまいそ

うだ.

参考文献

- 朝日 稔, 1980. ノートリアーほんろうされた毛皮獣.  
川井禎次ほか編『日本の淡水生物—侵略と攪乱の生態学』pp. 99-105, 東海大学出版会.  
岡田 篤・立澤史郎・村上興正, 1998. 岐阜県に生息するノートリア (*Myocastor coypus*) の分布の変遷. 関西自然保護機構会報 20: 77-81.



ノートリア (兵庫県加西市のため池で撮影)

○水草関連文献リスト

<1999—(3)>

- 安島美穂, 1999. ヨシ原における埋土種子と植生の関わり. 関西自然保護機構会報 21: 103-109.  
今井紘一・小谷博哉・小林圭介, 1999. 「滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例」の制定と運用について. 関西自然保護機構会報 21: 227-233.  
岩村政浩, 1999. 佐賀県産塩生植物の現況. 佐賀の植物 (35): 39-58.  
植村修二, 1999. 第21回水草研究会全国集会(岡山県倉敷市)に参加して. 近畿植物同好会会報 (78): 11-14.  
江崎保男・藤井伸二・永田尚志・桜井善雄・山岸哲・鷺谷いづみ, 1999. 座談会「ヨシ原とは何か」関西自然保護機構会報 21: 339-361.  
岡村一允, 1999. 豊中市内におけるため池の「水草」. 近畿植物同好会会報 (78): 9-11.  
角野康郎, 1999. ヨシの生態—座談会を讀んで—. 関西自然保護機構会報 21: 363-365.  
上赤博文, 1999. 佐賀平野のクリークの植物 その3. 佐賀の植物 (35): 17-22.  
神戸敏成, 1999. 絶滅危惧植物ミズアオイ (*Monochoria korsakowii* Regel et Maack.) の富山県内における分布について. 富山県中央植物園研究報告 (4): 59-66.  
小山弘道, 1999. 鶴殿のヨシ原の保全事業. 関西自然保護機構会報 21: 207-215.  
徐 開欽・加藤智博・稲森悠平・西村 修・細見正明・須藤隆一, 1999. 浚渫ヘドロ上に創出した人工ヨシ湿地の水質浄化機能の評価. 用水と廃水 41: 504-512.  
須川 恒, 1999. ツバメの集団時となるヨシ原の重要性. 関西自然保護機構会報 21: 187-200.  
高木典雄, 1999. 干上がった池底に生ずる蘚類植物—愛知県産4種について— ため池の自然 (30): 1-6.  
高田直俊・有馬忠雄・村上興正・中川美好・松宮照雄・白取 茂・伊藤敦基, 1999. 宇治川におけるツバメの蒔としてのヨシ原の創成. 関西自然保護機構会報 21: 257-270.  
立花吉茂, 1999. 琵琶湖の湖岸に分布するヨシとその特性について. 関西自然保護機構会報 21: 125-131.  
田村和也・武田義明・赤松弘治・服部 保, 1999.